

令和4年度 大気環境、水環境、ダイオキシン類、自動車騒音及び環境放射能水準調査結果について

環境保全課

1 大気環境

(1) 大気環境常時監視測定結果の概要

- ・光化学オキシダントを除く5項目については、すべての測定局で環境基準を達成
- ・光化学オキシダントについては、全国的にも達成率は極めて低く、すべての測定局で環境基準を未達成
- ・光化学オキシダントの環境基準以下であった時間の割合は約95%で、年平均値は0.034ppmとなった
- ・令和4年度は、光化学オキシダントの注意報の発令はなし

<参考>

区分	測定局数	環境基準達成局数	達成率(%)	3年度全国達成率(%)
二氧化硫黄	24	24	100	99.8
二氧化硫素	24	24	100	100
浮遊粒子状物質	24	24	100	100
光化学オキシダント	22	0	0	0.2
一酸化炭素	1	1	100	100
微小粒子状物質(PM2.5)	16	16	100	100

(2) 有害大気汚染物質調査結果の概要

- ・環境基準が定められているベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタンについては、すべての測定地点で環境基準を達成
- ・指針値が定められている11物質については、1,2-ジクロロエタン以外は、すべての地点で指針値を達成

<参考>

区分	一般環境		固定発生源周辺		沿道環境		達成率(%)	3年度全国達成率(%)
	調査地点	達成地点	調査地点	達成地点	調査地点	達成地点		
アクリロニトリル	3	3	2	2	1	1	100	100
塩化ビニルモノマー	3	3	1	1	1	1	100	100
クロロホルム	3	3	2	2	1	1	100	100
1,2-ジクロロエタン	3	3	1	0	1	1	80.0	99.7
1,3-ブタジエン	3	3	2	2	3	3	100	100
アセトアルデヒド	3	3	1	1	3	3	100	100
塩化メチル	3	3	3	3	1	1	100	100
水銀及びその化合物	3	3	3	3			100	100
ニッケル化合物	3	3	3	3			100	100
ヒ素及びその化合物	3	3	3	3			100	98.2
マンガン及びその化合物	3	3	4	4			100	99.3

2 水環境 「水質汚濁防止法」第15条第1項に基づき、公共用水域及び地下水の調査を実施

(1) 公共用水域の水質測定結果の概要

①健康項目

- ・カドミウム、全シアン等27項目について、河川63地点、湖沼12地点、海域24地点で調査を実施
- ・砒素が4河川(大分川、八坂川、朝見川、町田川)5地点で環境基準を超過したものの、八坂川については上流(立石川)の休廃止鉱山の影響、大分川、朝見川及び町田川については上流域の温泉に起因する自然的なものが原因と考えられ、いずれも水道水等利水上の影響は生じていない

<参考>

区分	4年度			3年度全国達成率(%)
	調査地点数	超過地点数	達成率(%)	
河川	63(49)	5(5)	92.0	98.8
湖沼	12(12)	0	100	99.3
海域	24(24)	0	100	100
合計	99(85)	5(5)	94.9	99.1

※()内は大分市を除いた数(再掲)

②生活環境項目

- ・河川におけるBOD、湖沼及び海域におけるCODについては、環境基準点を定めている河川43水域、湖沼2水域、海域19水域で調査を実施
- ・環境基準を達成しなかった水域は、河川では大野川、臼杵川及び伊呂波川の3水域、海域では臼杵湾の1水域

<参考>

区分	4年度			3年度全国達成率(%)
	類型指定調査水域数	達成水域数	達成率(%)	
河川(BOD)	43	40	93.0	93.1
湖沼(COD)	2	2	100	53.6
海域(COD)	19	18	94.7	78.6
合計	64	60	93.8	88.3

(2) 地下水の水質測定結果の概要

- ①概況調査
 ・地域の全体的な地下水質の状況を把握するため、46本の井戸で実施
 ・環境基準を超過した井戸はなかった
- ②汚染井戸周辺地区調査
 ・当該調査区分に該当する井戸がなかったため、調査実績はない
- ③継続調査
 ・過去の汚染井戸周辺地区調査により確認された汚染の継続監視のため、26本の井戸で実施
 ・一部の井戸で環境基準を超過
 ・地質など自然由来や、クリーニング所等を原因とするものや一部原因が特定不能なものもある
 ・いずれの井戸も所有者等に情報提供し、飲用しないことなどを指導

区分	基準値 (mg/L)	概況調査		汚染井戸 周辺地区調査		継続監視調査		合計	
		調査	超過	調査	超過	調査	超過	調査	超過
		井戸数	井戸数	井戸数	井戸数	井戸数	井戸数	井戸数	井戸数
砒素	0.01以下	34	0	調査 実績 なし		4	1	38	1
1,2-ジクロロエチレン	0.04以下	37	0			13	1	50	1
トリクロロエチレン	0.01以下	37	0			13	1	50	1
テトラクロロエチレン	0.01以下	37	0			7	3	44	3
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	10以下	46	0			19	7	65	7
ふっ素	0.8以下	43	0			24	1	67	1
クロロエチレン (別名塩化ビニル又は 塩化ビニルモノマー)	0.002以下	8	0			7	1	15	1
調査対象井戸数		46	0	26	14	72	14		

※同一の井戸で複数項目の超過があった場合、1本の井戸として計上。

3 ダイオキシン類

- ・ダイオキシン類による汚染状況の把握のため、大気、水質、底質及び土壌を調査
 ・調査した66地点のうち1地点の地下水で環境基準を超過した。

<参考>

区分	調査区分	調査地点	達成地点	達成率(%)	3年度 全国達成率(%)	
大気	一般環境	7	7	100		100
水質	一般環境	37	36	97.3		98.5
底質	一般環境	15	15	100		99.7
土壌	一般環境	7	7	100		100
合計	一般環境	66	65			

4 自動車騒音

- ・幹線道路に面する地域における環境基準の達成状況を把握するため、「騒音規制法」第18条に基づき、自動車騒音の常時監視を実施
 ・延長3,232.4kmの主要幹線道路に面する騒音の影響を受ける地域のうち、96,701戸の住居等について調査を実施
 ・94,301戸(全体の97.5%)の住居等で環境基準を達成し、令和3年度の全国集計値(94.6%)を上回る結果

	評価区間 延長 (単位:km)	評価 区間数 (単位:区間)	住居等 戸数	評価結果 (単位:戸)			
				昼夜とも 基準値以下	昼のみ 基準値以下	夜のみ 基準値以下	昼夜とも 基準値超過
高速自動車国道	124.1	54	1,197	1,191 (99.5%)	0 (0.0%)	4 (0.3%)	2 (0.2%)
一般国道	993.7	481	35,011	33,505 (95.7%)	269 (0.8%)	279 (0.8%)	958 (2.7%)
県道	2,102.5	652	56,504	55,639 (98.5%)	197 (0.3%)	373 (0.7%)	295 (0.5%)
4車線以上の 市町村道	12.1	13	3,989	3,966 (99.4%)	3 (0.1%)	2 (0.1%)	18 (0.5%)
合計	3,232.4	1,200	96,701	94,301 (97.5%)	469 (0.5%)	658 (0.7%)	1,273 (1.3%)

5 環境放射能水準調査

- ・昭和63年度から、国からの委託を受け、環境放射能の監視を継続して実施
 ・平成24年4月から、モニタリングポストを4局増設し、県内5局で空間放射線量率を常時監視(異常なし)
 ・大気浮遊じん、大気降下物、上水、土壌、精米、野菜類、牛乳に含まれる人工放射性物質の調査を実施
 ・土壌からは人体への影響がない放射能濃度の基準未満の人工放射性物質を検出(異常なし)

試料名	試料数	採取場所	単位	核種名 ヨウ素-131	核種名 セシウム-134	核種名 セシウム-137	
大気浮遊じん	4	大分市	mBq/m ³	検出なし	検出なし	検出なし	
大気降下物	12	大分市	MBq/km ²				
上水	1	大分市	mBq/L				
土壌	(0~5cm)	1	竹田市	Bq/kg・乾土	検出なし	検出なし	30
	(5~20cm)	1	竹田市	Bq/kg・乾土	検出なし	検出なし	6.6
精米	1	宇佐市	Bq/kg・生	検出なし	検出なし	検出なし	
野菜類	2	宇佐市	Bq/kg・生	検出なし	検出なし	検出なし	
牛乳(原乳)	1	竹田市	Bq/L	検出なし	検出なし	検出なし	